旅と文化

発行所
東京都千代田区
神田神保町2～30
財団法人全国
修学旅行研究協会
TEL(33)0168
編集兼発行人
永井熙

さくら
フイルム
コニパンSS

本年の修学旅行をふり返る

初めて動いた特別専用列車
だが、未だ道遠し安全対策

修学旅行は学習を校外に移したものであるという立場からは、一年を通じて春夏秋冬実施されてよい筈のものであるが、種々の条件から春と秋の二季に集中されているのが実態である。

このうち日本の学校の大半は、最近春期に修学旅行を実施している傾向があり、今この期間に行われた修学旅行の実情についてその特徴点を回顧し今後の参考に資したい。

春期といつても最近は卒業期の三月に実施したり、七月の夏季に行う学校も多くなつたが、何といつても四、五、六月の候に圧倒的に集中されたことは今年度も同じであつた。

修旅の事故の防止からもこのピークをはずす運動が展開されているにもかかわらず、総体的には一向に是正されなかつたので相変らず観光地は旅行の児童生徒で大氾濫を来した観があつた。

特別専用列車（設定臨）で品川駅より出発する東京の中学生

このため国鉄、私鉄、バス、船舶等も例年のように大動員されたがどうにもさばききれず、輸送面の大混雑は臨時列車に乗れず、一般列車に混乗組が多く、いたづらに修旅の困苦を味わせた感があつた。一方輸送業者の物心両面のオーバーワークは凡ゆる面に無理を生ぜしめ、箱根のバス転落を始めとして衝突事故等の惨事が起つたことは遺憾であつた。

こうした中にあつて、輸送面の大ヒツトは何といつても、東京中学生を関西に送る為の集約臨の実施であつた。これだけは手離しで国鉄に賛辞が送られてよい朗報である。児童憲章があつても子供が冷遇されているこの国の修旅にこの措置は遅きに失した恨みはあるが何といつても嬉ばしい。この修旅サービスが東京の中学生だけに実施されるという不公平さをなくし全国学童を対象として企画されることの一日も早いことを祈つてやまない。

次に宿泊上の問題であるが、今期は特に、業者によつて打出された料金値上げが、父兄の出費の上に大きく影響して来たことである。きめ手を持たぬ文部省の道義的圧力だけでは どうにも ならなかつた。決して賛成出来ぬ料金値上が旅館の設備の上に、或は、食事、サービスの上にどのような向上を見たかを、引率の教師は確認されてであろうか。又旅行斡旋業者はどれだけやかましく、点検したことであろうか、あまりこの面の声を聞かなかつたことは残念であつた。

旅館について今期の大衝撃は京都における宿泊中の火災であつた。この事故から宿舎に於ける避難訓練という厄介なことが附加されることとなつたが、安全教育という立場からは当然にしつけなければならない教育であり、これを大きな教訓としたいものである。

最後に学習と修旅の立場から見ると、カリキュラムに対する良心的態度が見られるようになつたが、概して旅行地は劃一的に観光地という昔ながらの慣習に堕している感が深い。これは今後の大きな課題であろう。

東西支部長会議

東部　七月三日　全修協本部
西部　七月七日　大阪　浪速荘

○組織運営について
支部結成状況の報告の後、支部長の人事更迭では、山口県の宮本吉正氏、広島県の大西八郎氏、大阪府の石川為蔵各氏の新任支部長就任の紹介があつた。

○事業について
実態調査及び研究指定校の中間報告、作品コンクールの進行状況等の各報告があつた。
次いで、研究旅行の実施具体策について協議に移り、両会議とも午後五時頃散会した。

第三回役員会

七月二十三日　本部会議室

台風十一号の風雨をついて、七寧、一監事が集り、十三時より開会された。

○組織に関して

全修協のうごき

役員会及東西支部長会議

強化充実をはかるため、その活動の原動力として機関紙の活動を活発にすべしとの結論に達した。この為には機関紙の内容に、旅行、文化、教育、政治、ローカルニュース等を盛りこみ、誰が読んでも興味のあるものにすることが強調され、また各支部長の修旅に関するローカルニュースを求めよとの声もあつた。

次に支部の自主的活動を助長するため、支部の会合を持つことが討議された。

○事業に関して
研修旅行、実態調査、研究指定校等の経過報告の後、実態調査の集計については、その期間、方法、発表等につき、研究指定校については、未定県の催促、実施の具体策につき、修旅の指導書については、編集方針の大綱が討議された。

次いで、来年度の研修旅行や、研究指定校及び研究発表会のために対策委員会を持ち、また修旅の指導書刊行のために編さん委員会を持つことが決定された。

修旅の実態調査の集計結果発表には、修旅行白書の形ではとの意見も出た。

熱心な討議の後、午後六時過ぎ散会した。

設定臨について

東京都修学旅行対策委員長
川合八郎

これは、この六月、東京都と近県の中学校修学旅行団を乗せて、東京―京都間を走る、安全で、速く、しかも楽しく教育的な専用臨時列車の名である。

修学旅行は、義務教育最後の学年に実施される重要な学校行事の一つである。学校行事も教育課程の一環であるからには、当然、この修学旅行にも教育的な意義が十分にあるべきである。

ある中学生の紀行文「ねむれぬ夜行列車」の中にも、「……どうしても一人は通路にはみだすことになつた。私はめんどうなので通路のござの上に座つた。夜行だからいいが、昼間だつたら外の景色もみられない」

これは特例かもしれないが、修学旅行列車の大部分がこんな状態で東海道を走つている。車窓に移りゆく風物をゆつくり眺めることすらできない。まして車中での公衆道徳の体験、規律ある行動というような生活指導も絵にかいた餅である。教師の心労も並たいていでなく、とにかく無事に京都まで運ぶことで精一ぱいである。これでは、楽しかるべき、せつかくの修学旅行も第一歩からして苦しみの旅として印象づけられてしまう。

この最大の原因は、約十二万名におよぶ東京都の中学生の修学旅行が、五月、十月を中心とする二カ月に集中する傾向があるからであり、これに地方から東京を通過する修学旅行生、東京から地方に帰る修学旅行生の数を加えると、安全輸送を期待するほうが無理ということになる。

こういう現状を思うとき、だれしもが計画輸送を考える。考えながら実現されなかつたのは、自校主義と、計画を推進する強力な母体がなかつたからである。

ここに、東京都の指導室長会は都の指導部の依頼を受けて、修学旅行対策委員会を設け、研究に研究を重ね、関係方面と折衝協議しようやく六月中の設定臨の案を得る段階に達したのである。ここにいたるまでには、すでに申し込まれている今春の修学旅行計画を集め可能な限り六月に変更調整して輸送日程を組み、一日千名を目標として日割りをし、各区室長を通じて学校側と連絡しながら調整したものである。

設定臨の目標は、計画輸送による、安全で、楽しく、速い快的な旅のうちに、車中の学習、生活指導に十分な効果をあげることにある。列車が湘南型のドアエンジンつきの電車であることにまず第一の特色がある。列車事故の大半がデツキから転落することにあることを思えば、進行中は絶対に安全であり、引率教員が入口で不寝番をしなければならない心労からも解放されるわけである。

第二には、一列車千名の計画輸送であるから、二人掛けが原則になり、多少のオーバーに対しては補助椅子を用意することになつている。しかも、東京、京都間を特急と同じく、七時間程度で走るという快速ぶりで、短縮された時間は、現地についてからの見学のため有効に使えるわけである。なお車中沿線の地理、歴史等を用意されたテープで放送し、おしやべりと喧騒に終始した車中が、文字どおりの移動教室になるという計画である。

この計画は本年の一月ごろから着手されたもので、時間的に余裕もなかつたので、六月中の設定臨に終つたがそれでも三万名の安全輸送ができ、所期の目的の大半が一応達成されるわけである。いやそれにもまして意義のあることはこの六月輸送の成果が、今後の修学旅行輸送に革命をもたらす端緒にもなればと思うことである。

この六月の設定臨の体験をもとして、来年度は東京都下全中学校について年間を通じての輸送計画を考える。つまり約十二万名の中学三年生の輸送を一日一本の設定臨で往復するならば、一二〇日で完了するはずであり、四、五、六九、一〇、一一の六カ月を各区または各中学校の希望にもとづき、これを調整するならば、完全輸送も不可能でないわけである。各校は、この輸送計画にもとづいて見学の巡路、宿泊等を自主的に計画すればよいのであつて、各校の自主性を統制することにはならない要は輸送を計画化することが主眼である。しかし、一地域のみで計画輸送をやつても、大いなる効果を期待し得ないのであつて、急速に各地区において計画され全国的計画にまで推し進められることを望んでやまない。

修旅の時間制限を考慮せよ

田波又男

学生にとつて修学旅行程有益で楽しみなものはなく一生の中これ程深い思い出となるものは外にはない。またその反面人命に関するような危険をともなうものである。昔から「可愛い子には旅をさせろ」という諺がある位、青少年諸君にとつては旅は長い人生行路の生きた修行である。

東京都立高校の修学旅行を見ると、九十六時間という日程の制限がある。私共都立高長協会では、あらゆる点を考慮して一日も早くこの時間制限撤廃を望んでおり、若し出来なければあと十時間位の延長がほしいと思つているが実現出来そうもない。不許可の理由は種々あると思うが。学習上や費用の関係からの親心からと思う。然しながら修学旅行は授業の延長であるから、事前調査や旅行中の研究や事後の研究発表が必要であり、この学習の効果をあげるためには、夜行列車を避けて生徒の疲労を少なくしなければならない。制限撤廃や延長を望むのはこの理由からである。

（筆者は東京都立城南高校長）

修旅の非常対策

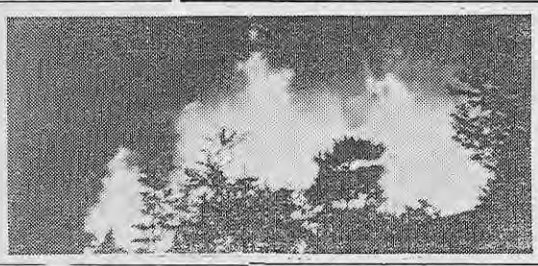
日頃の訓練と心掛が必要

ことしの四月十一日、修学旅行中の女子高校生が人波につき落されて死亡し、二十五日には京都の旅館が焼けて、先生や生徒二十六人が重軽傷を負つている。

この旅館の火災について、全修協京都府支部長の芦田重左衛門氏は次の様な意見を述べている。

「全国の凡ての旅館に希望することでありますが、特に修学旅行生の泊る旅館は、全部この際必ず非常災害の場合の指図について、厳重な再検討を行い、殊に避難の万全策を即刻実施完了の上、旅行生を受入れられる様強く要望致します。又その監督指導に当つていられる消防署の方でも、十分な監督と指導とをせられる様切望致します。更に旅行の引率者或は案内者等は、旅館でも乗物でも、先づ非常口はどこか、万一の場合の避難の順序、誘導を如何にするか、定員の厳守等は常に忘れてはならない根本的緊要事項ではないかと思います」

一昨年八月、信州蓼科高原の林間学校に来ていた東京都世田ケ谷区立八幡中学の生徒二百十四名の宿舎が、突然火災のため焼け落ちた。夜中の事とて生徒全員熟睡中であつたが、先生の敏速な報道と処置で、一名の負傷者も出ず全員無事に退避することが出来た。



炎上中の蓼科高原の林間学校

当時生徒を引率していた佐藤立夫教諭は、一名の負傷者も出なかつた事について次の様に言つている。

第一に日頃の避難訓練を真面目に行つておくこと。

第二に宿舎に着いたら直ぐ非常口や非常階段等を点検し、非常戸口や鍵の開け方や階段の降り方等を生徒に指導しておくこと。

第三に非常災害に備えて各班毎に必ず懐中電燈を用意しておくこと。

第四に火災が起きたら大きな声で知らせると共に、手荷物を放棄して先づ避難させること。手荷物を持つて狭い非常口や階段を出る時は、必ずすべつたりころんだりしてけが人が出る。

第五に宿舎では早寝をさせ、荷物はまとめて枕元におき、或程度貴重品は身につけておくこと。

修学旅行中の災害は、総べて突発的に而も不慮の際に起るものであるから、つね日頃からこれに対する万全の用意と心掛けが必要である。

行硯

今日も東京駅のホームを修学旅行の一団が、揃いも揃つてビニール製の旅行カバンを重そうに提げ疲れた足どりで行く。若鮎のような発剌さはなく、まるで難民の群を見るようだ。それにしても、あの揃いのビニール製カバンは、よくも統制された ものだと感心する。一つの流行に統制された没個性の一群、流行の重圧だけが支配して少しの合理性も見出せぬ。ロマンの夢多き少年が俗悪・不合理な流行の中に埋没して、反省のないのは、どこか修学旅行のあり方に欠陥があるのではないか？

ピストン式の輸送、通り一遍のバス見物、無批判な土産物の買いあさりと俗悪・没個性を特色とする流行に支配された現代の修学旅行といつては言いすぎか。

☆　☆　☆

修学旅行に全員参加

区費の補助により

教委、学校、PTAの温い配慮

不参加者をなくして全員参加による修学旅行を行うため、学校やPTAや教委等が如何なる対策を立てているか、その二、三の例をあげてみよう。

東京都世田ケ谷区教委では、区内小中校の保護及び準保護家庭の生徒の、旅費の半額を補助するために、総額九七万五千円の予算を組んでいる。

東京都三鷹市教委では、同じように不参加者中の保護及び準保護家庭の生徒一一〇名のために、総額十四万円の予算を組み、貧困の度合によって一人当り一五〇〇円、一〇〇〇円、五〇〇円の三段階に分けて、各学校長の内申によりそれぞれ支給している。

東京都大田区羽田中学では不参加生徒のために、廃品回収や大会社の寄附によってこれをなくそうと計画している。

〃勤労生徒の友情〃

四十数人の組に十四人の男子生徒がいる。関西旅行の準備が始って一人だけが行けないことがはっきりした。彼は病母を親類にあずけ小さい妹と二人で暮している。いよいよ出発の期日が迫って、日ごろ明るい彼もさすがに暗い顔をしていた。なんとか彼を参加させたいと思ったが、旅費の五千円は大金である。気の毒なのでなるべく彼の顔を見ないようにしていた。出発の勢ぞろいに十四人が同じような旅装で集って来て楽しそうに談笑していた。彼らがそろってこんなられしそうな顔をしていたことはいままでになかった。高校生活は一生に一度である。男子十四人の中の一人を残して行くことはできない。と彼らはひそかに相談し合って、金や必要品を工面したのである。彼らだけの相談なので同級の女子生徒はほとんど知らない。同行約三百人の女子生徒の仲間に入って京都や奈良の名所旧跡を終始明るく楽しそうに見学して帰校した。彼らはいずれも昼間仕事を持つ勤労生徒である。

（朝日新聞、声欄掲載）

旅館も学習の場

教師に訴える　旅館業者の声

修学旅行に於ける旅館問題は、大切な要素として研究論議されているが、旅館側の立場から修学旅行に対する見解発表は殆んど見られない。商売上お客の立場にある学校や交通関係や斡旋業者に対する遠慮から、突込んだ意見や批判を差ひかえるのは無理からぬことである。都内の某旅館主は、特に匿名という条件で編集局宛に左の手記を送って来た。

「修旅に関して、旅館側からかれこれいうことは余りに問題が多く外部に発表するには余程の勇気を要することでございます。然し何時までもヴエールの裡に包んでいたのでは、修旅の進歩もあり得ませんので私共旅館業自身なりに修旅のあり方について独自の見識を発表させていただき各関係者の御高見をいただく積りでございます。

修旅に関する限り旅館は、全く社会事業であり、その施設は公共物であり、そして教育機関の一つでもあると自負するもので、私共旅館人も深い経験の下に、誰にも劣らない理解と熱意を持ち、一種の信念識見を有しているつもりであります。

旅館は営業であり、サービス業であり、需給上の売手市場であるとは申しながら、いま少し修旅に於ける旅館の役割或は地位の向上に深い認識と共感を望む次第であります。

現在、旅館人はあらゆる面からの圧力及び強要の屈従で呻吟しておるといつても過言でありません。修旅に於ける旅館人は恰も鉄道の駅長及び車掌、船舶の船長の如く、ユースホステルのペアレント（旅館主に相当）のように、投宿者に対して幾分なりともの発言を許されてよいと存じます。

ということは、先生のあり方、生徒の団体生活の指導、宿泊エチケット及びマナーの訓練、旅行業社と先生との因縁関係、旅館と旅行業社との攻防策略、というようなかに私共の目に余る現象もあり、一歩一歩改善せられつつあるとは申せ、来る年来るシーズン毎に寄せては返す波の如く、その対処に忙殺される新課題もあります。

具体的な実例を申上げる紙面の余裕もありませんので、私の旅館業を通じての問題点をここに紹介いたしたいと思います。

一、修学旅行は学習活動か、それともリクレーションか、特に宿泊部面に於てこの感を深くします。

一、先生は修旅に於ける利権観の対象なりや。特に斡旋業社に対して公明無私なる主導権の確立性が必要と思われる。

一、先生はとかく経済理念にうといというが、修旅経理を何処まで研究されているか。

一、一片の補償乃至保護政策もなく自己の責任と負担に於て社会事業を営む修旅旅館が、あらゆる面のシワヨセをかぶつて、苦難と斗つている現在、諸物価と逆行する修旅宿泊料に御理解協力を切望します。（一旅館主）

問題を投げかける　修旅団体の宿泊料大巾値上げ

全関東団体旅館協議会常任委員会は去る四月二十二日日光市小西六別館において、団体旅行の宿泊料について協議、その結果昨年九月発足当時決めた適正料金を九月一日より実施することになり全国教委、学校等に伝えることにした。

参加団体は東京江ノ島、鎌倉、箱根。なお改正の適正料金は次の通り。

一泊三食付小中校　四〇〇円
標準A　五〇〇円以上
B　四五〇円以上
一泊三食付高校　五〇〇円
標準A　六〇〇円以上
B　五五〇円以上
一泊三食付特殊専門校五五〇円
標準A　七〇〇円以上
B　六〇〇円以上

従来の日光地区の料金は小学校一律二五〇円、中学校三〇〇円、高校三五〇円となつており大幅な値上げになることがわかる。

この全関東団体旅館協議会の値上げ申合せは、果してどの程度実行され得るか、旅費に限界があるので九月からの実施は疑問である。

（栃木県支部長　高橋通亮発）

春の〝日光〟新記録

一日にどつと一万人

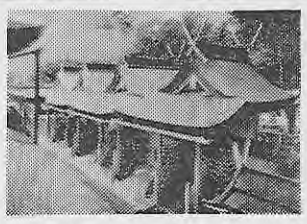
四月二十三日には、福島県平一中六〇〇人ほか六十二団体約一万人の修学旅行生が、どつとくりこみ日光地方の新記録を作つた。

ほとんどが中学生で、県営駐車場は貸切バスの列で、列車利用は二割程度。これは新学期も始つて一段落したのと、五月連休の混雑をさけようとしたねらいとみられる。

数だけは年々増加するが、足だまりを東京に置いて、日帰り見物の学校が大多数で旅館泊りは案外少ない。

（栃木県支部長　高橋通亮発）

Guide　建築の見どころ



春日造（かすがづくり）の典型をなすのが春日大社本殿で、東から西へ順次第一殿から第四殿までの四むねからなる。ほぼ同形同大であるが、第一殿だけは少し高く造つてあり、階段の数も他の三殿より一段多い。前面に階隠（はしかくし）の屋根を巧みに取り付けてあるのが春日造の特色で、檜皮葺（ひわだぶき）の屋根の上には形式化した堅魚木（かつおぎ）と置千木（おきちぎ）が取り付けてある。

一八六三年造替　奈良

厳島と修学旅行

年間三十万人の宿泊者

日本三景の一といわれる厳島は東に原爆都市広島を西に錦帯橋で有名な岩国を持つて、いづれも一時間以内の距離にあることと、広島厳島間は国鉄、私電があり、更にドライヴウエイともいわれる一級国道は各社のバスが間断なく走つているため、県内は勿論県外よりの修学旅行生の数は甚だ多い。

昨年度に於ける厳島を訪ねた客は修学旅行、一般遊覧を併せて約百六十万名に達している。その約二割三十万人が宿泊しているため、旅館の数、宿泊設備等も非常によくととのつている。

近く県立の水族館も出来、更に紅葉谷から弥山頂上までのロープ、ウエイも今年着工するので、一層遊覧客も増すものと思われる。

次に修学旅行向の旅館を調べてみると、

旅館名	収容人員	浴室	便所
かめ福	四五〇名	二	六
大根や	一〇〇名	三	一二
伊藤	二〇〇名	一	九
宮島館	二〇〇名	三	三
錦水館	二五〇名	二	三
ひかしや	二五〇名	一	四

更に筆者が四月二十五日東京の某高等学校三〇〇名の宿泊している某旅館を訪ねて修学旅行の隘路盲点と思われる点を調べてみると時節柄か広島迄の国鉄は座席が不十分で生徒が相当疲れたとの事である。修学旅行の組織化の必要性を感じる。広島、岩国、宮島間のバスは乗り心地もよく、サービスも満点で快適であつたとの事。旅館については食物、設備、サービス等十分。神社参拝の際、靴のままで草履を穿けるのは旅行者として大変都合がよろしいと言つていた。

次に四月二十六日県内の某小学校七五名の宿泊している某旅館を訪ねて種々修学旅行に関するアンケートを求めたが輸送、旅館、神社等全般にわたつて大変よく、愉快な旅行が出来たと喜んでいた。

（広島県支部長　大西八郎発）

カルスト奇勝と大内文化歴史

中国地方の旅

将来性のある旅行地域

地層逆転の地質学上の大驚異、石灰岩の広大な高原に白い岩の林立するカルスト地形、処々に鉢形の窪地ドリーネ、さては先史生活の遺跡、更にその地下には特別天然記念物たる秋芳洞を始め中尾、大正、景清等の世界的大洞穴を形成するこの奇勝の地

山陽本線小郡駅から防長バス又は山口から市営特急定期バスに約一時間半、身をゆだねるのであるが、路面の悪いことと大理石の土産品が比較的高価であることが、洞前の休憩所などの折角のサービスを減殺させる憾みをもつ。

又洞内のエレベーターは、その能力の関係で三百名以上の団体では特に多くの時間を要することが、台上の研究時間を圧縮させて旅行プランをくるわせる。しかし、秋吉台博物科学館、青年憩いの家、路面の補修等が完成すれば更に学生生徒の修学旅行の最適のコースたり得ると信ずる。

▼山口、湯田温泉

瑠璃光寺の五重塔、八坂神社の大鳥居、築山神社、龍福寺の本堂、高嶺山下の大神宮、古熊天満宮、常栄寺の雪舟の庭、さてはザビエルの塔など四百年昔のけんらんたる大内文化を物語る山口の名跡

賀茂川になぞらえられた椹野川のせせらぎ、戦国争乱の世、都の衰微にひきかえて、雨の京都として、殿盛と平和と高き文化を宇内に誇つた山口も、今はわずかにその名残をとどめるのみ近代都市としても何等耳目をひくものはない

ただ静かな教育の町として、又歴史の街として如上の如き名跡に目をひき足をとどめしむるのである。

しかし温泉町湯田は、その性格上から学生生徒の宿泊に適する場所とはいい得ない。特に関門国道トンネル完通に依り、博多門司並びに岩国、広島間に直通バスが運行せられるようになり、交通が至便になるに伴い、湯田は全く遊楽観光の客をもつてうづめるようになつたので、学生生徒を宿泊せしむる旅館も限られ、待遇も一般的に上等とはいい難いのは淋しい。

温泉地であるので、大衆大浴場の外各旅館とも浴場は概ね広く整備はされてはいるが、乱掘のため湧出量が近年減少する傾向にある上に、温度が除々に降下して来つつあるので目下これが対策に腐心していると聞いている。

▼特色

各学校における修学旅行の時季が概ね時を同じくするので、之れが受入態勢に非常な混雑と苦痛を感ずる。殊に「集約臨」の箱の割当とその実施を国鉄が十分励行しないため、その争奪に各学校団体が狂奔し、不安と動揺と時間や経費の浪費を来しているのは考えるべき点である。

これが改善は各学校当局の早期に旅行計画を樹立することと、国鉄当局への全面的な強力な交渉と相俟つて繁喫の要事であろう。

（山口県支部長宮本吉正発）

北陸の京都　九谷焼の金沢

金沢附近の温泉郷は一般客が多く学生団体を受けることをあまり歓ばないようだ。加うるに、国鉄の単線と道路未完成のため、バスや列車の輸送量が少くなく金沢へ来る修学旅行団は微々たるものである。しかし、古刹や美術工芸（九谷焼）或は兼六公園等の有形、無形の文化財を持つ金沢市は、旅館の設備も充分であるから、修学旅行地としては最適である。

（石川県支部長　内田武雄発）

計画的に四国路へ

関東、中部地方から来た学校団体は香川県に入つて、案外交通路と時間を空費している様子である。即ち、高松―屋島―栗林公園―琴平（一日）小豆島（一日）のコースでまごついている学校が多い。四国内の国鉄輸送は、概して良好である。高松の旅館は待遇はよいが浴場が狭く、琴平は広くてのんびりしている。

春の瀬戸海は往々にしてガスのため、宇高連絡船、関西汽船が遅延するおそれがある。これが対策として誘導船の先行という処置があり、事故を未然に防ぐ事ができる。（香川県支部長山川菊一発）

旅にひろう

▼去る四月下旬の朝まだき、能登の隅から金沢へ修学旅行に来た小学校の女児二名が、先生がまだ寝ている間に街見物に出て迷子になつてしまつた。

▼あわてた先生達、旅館を留守にして自転車で飛ぶやら、徒歩で探し廻るやら、それこそ血眼になつて各方面を捜査し始めた。

▼迷子は警察に保護されているという電話で旅館の主人が防犯課にかけつけ、室に入ると、二人の女児は悠然と椅子に腰かけているその足もとに一人の係官がシューヤンボーイよろしくその児の靴を磨きながら、「サア、これで金沢の子供と同じようになつたネ」と笑い、「朝食はまだだというのでパンを買つて食べさせたヨ」という次第。

▼映画〃警察日記〃を地でゆくような、ほほ笑ましい風景に、旅館の主人はホロリとした。いかに民主警察とはいえ、何かしら県民の醇朴さがにじみ出ているようで気持がよい。

▼修学旅行には思わぬ事故が突発するので、引率の先生の苦労は並大低ではない（石川支部発）

編集後記

春の修旅総まとめの意味で、設定臨、時間制限、非常対策、不参加者問題、旅館業者の声、宿泊料値上げ等の問題を採り上げ、更に各県支部長各位の報告を収録した。今後は本号に記載できなかつた修旅の本質や方法論は申すに及ばず旅行、文化、教育、政治、ローカルに起つた出来事など、あらゆる面を採り入れたいと思うのでこれに関する送稿をお待ちしている。本号より鈴木万一、河野正夫両先生の寄稿により〃行硯〃と〃ガイド〃の二欄をコラムとして連続して掲載することになつた。

全国高校の修旅実態調査の集計や研究指定校の実施内容や第二回研修旅行の結果等は次号より掲載の予定である。（山本）

歴史学界の総力を結集した
世紀の偉業完結！

図説日本文化史大系
全十四巻

完結記念予約受付中
◇完結記念特価（全十四巻）一六、〇〇〇円
（一時払）一五、〇〇〇円
（送料六〇〇円）

東京都千代田区神田一ツ橋二ノ五
小学館

修学旅行の御計画は…
全国各地に96の営業所を持ち多年の経験と信用を誇る

KNT
近畿日本ツーリスト

本社　東京都千代田区　国際観光会館内(23)4035
関東営業局　東京都千代田区駿河台メンソレビル(29)7771
関西営業局　大阪市天王寺区上本町六丁目(77)8551